

# 落合支部だより 第162号

落合支部のエリア 真亀・落合全域 落合南2～5丁目

栗栖 皆代  
☎ 082-879-8124  
fax 082-979-8182

## 8・6 平和学習講座



被災地・紛争地の声から考える「平和」

～講演～ フォトジャーナリスト 安田 菜津紀氏

(TBSテレビ「モニタリングコメント」)



10年以上も紛争が続いているシリアや東南アジア・中東・アフリカ・日本国内での貧困災害の取材を進め、発信続けている安田さん。

現地の話を聞いてみると、みんな「なんだと不平を言いつつながらも自分たちも暖かいと感懐している。是の地についでない世界で生きていることを痛感しました。

あまりにも話が大きすぎて、自分のことに置き換えて考えることが出来ません。それね、そもそも若く34歳の若さで60代後半の自分自身も、及びもつかないこんな困難なテーマに取り組んでおられるのか？と率直な疑問でした。

16歳の時「国境なき子どもたち」の反情シリアとして訪れたカンボジアでの活動が現在の活動の発端とのこと。

成長期にそのような体験ができた環境、本人の意思はすごいと思いはした。

今私たちに巻き起こる社会がどうなっているか？疑問を持ち、真実と向き合おうとするには、頭脳・体力・精神力、そして環境(経済力)が必要、それに加え、安田さんは眩しいほど輝いておられます。世界で頑張ってください。

逆に、貧困であれば、発想も湧かぬ疑問も持てはくはるという負のスパイラルを感じる複雑な気持ちになりました。



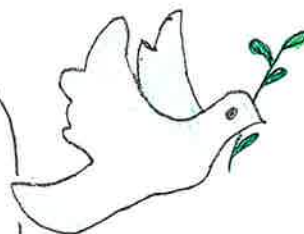
9月に入りました。コロナはまだ落ち着かない日々です。持って行く場所のないストスを抱え夕方ウォーキングをしていると一匹のアキアカネが肩にとまりました。まだ暑さは残っていますか、秋は一步步近づいてきているようです。

秋植えの球根は厳しい冬の寒さを超えて花を咲かせます。コロナという逆境を乗り越え、あはれの大切なお花と笑顔やふれあいの花が咲く日が来ることを心から祈りたいと思います。

### エッセイ コロナ禍に思う

ある組合員さんは、昨年の春、コロナ禍の中、母親を亡くされました。老健に入院中で、施設・病院が面会禁止をほる中、その方も面会出来ず、家族に看取られることになり、泣かれました。折から組合員さんの家では、県内から帰省しておられた御家族が発熱のため、告別式にも参加出来ず、改葬の方角に向かひ、手を合わせ、御見送りされたそうです。新型コロナウイルスが日本で猛威を奮い、おびやかす2年になろうとしています。亡くなられた方々、その御家族は、あつらひ、感染し、お世帯のために、悲しみや孤独、生活の息苦しさ、不便さなどに悩まされる人がたくさんおられることでしょう。かく言う私もその一人です。

体力・気力がぎりぎりまで診療に奔走して下っている医療従事者の方や副反応を薬じはばかりワケを打って下った方々、打ちにいた持病や体調不良を打てない人達。そしてこの瞬間も病魔と闘っている患者さんたち。そのお一人おひとりのかけがいのない大切な命の持ち主なので、長期の緊張と辛抱の毎日の疲れを毎日おもしろい。変異株が増えてくる今、もう一度基本的な感染予防を確実に行ないましょう！



「医療」「介護」「障害」等で  
お困りの方は  
ご相談ください



### いのちの相談専用電話

広島共立病院 医療福祉相談室直通

TEL090-7549-5393

